

第 4 問

【解答】

工 場 の 仕 訳				
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	500,000	本 社	500,000
(2)	賃 金 ・ 給 料	800,000	本 社	800,000
(3)	仕 掛 品	250,000	本 社	250,000
(4)	製 造 間 接 費	400,000	本 社	400,000
(5)	本 社	3,500,000	仕 掛 品	3,500,000

本 社 の 仕 訳				
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	工 場	500,000	買 掛 金	500,000
(2)	工 場	800,000	現 金	800,000
(3)	工 場	250,000	当 座 預 金	250,000
(4)	工 場	400,000	機 械 減 価 償 却 累 計 額	400,000
(5)	製 品	3,500,000	工 場	3,500,000

【解説】

工場会計を独立させた場合の本社と工場での記帳に関する基本的な問題である。

工場に設定されている勘定科目の関係から、今回の取引（(1)～(5)）はすべて本社と工場の両方に関係する取引であることがわかる。本社と工場の仕訳を行う際には、まず工場会計が独立していない場合の仕訳を行い、それをベースに本社と工場の仕訳を行えばよい。

(1) 材料の購入に関する取引

(借) 材 料 500,000 (貸) 買 掛 金 500,000



工場で記帳



本社で記帳

工場	材 料	500,000	本 社	500,000
本社	工 場	500,000	買 掛 金	500,000

(2) 給与の支給に関する取引

(借) 賃 金 ・ 給 料 800,000 (貸) 現 金 800,000
 ↓ ↓
 工場で記帳 本社で記帳

工場	賃 金 ・ 給 料	800,000	本 社	800,000
本社	工 場	800,000	現 金	800,000

(3) 特許権使用料の支払いに関する処理

特許権使用料の支払形態が出来高払いのため、直接経費として処理する。

(借) 仕 掛 品 250,000 (貸) 当 座 預 金 250,000
 ↓ ↓
 工場で記帳 本社で記帳

工場	仕 掛 品	250,000	本 社	250,000
本社	工 場	250,000	当 座 預 金	250,000

(4) 減価償却費に関する処理

年間見積額を 12 で割り、月額で記帳する点に気をつけること。

(借) 製 造 間 接 費 400,000 (貸) 機 械 減 価 償 却 累 計 額 400,000
 ↓ ↓
 工場で記帳 本社で記帳

工場	製 造 間 接 費	400,000	本 社	400,000
本社	工 場	400,000	機 械 減 価 償 却 累 計 額	400,000

(5) 製品の完成時に関する処理

本社工場間取引に内部利益を付加しないため、完成品原価のみの金額で記帳する。

(借) 製 品 3,500,000 (貸) 仕 掛 品 3,500,000
 ↓ ↓
 本社で記帳 工場で記帳

工場	本 社	3,500,000	仕 掛 品	3,500,000
本社	製 品	3,500,000	工 場	3,500,000

新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト P.228～235 参照

新版日商簿記 2 級工業簿記 問題集 P.136～143 参照

第 5 問

【解答】

問 1

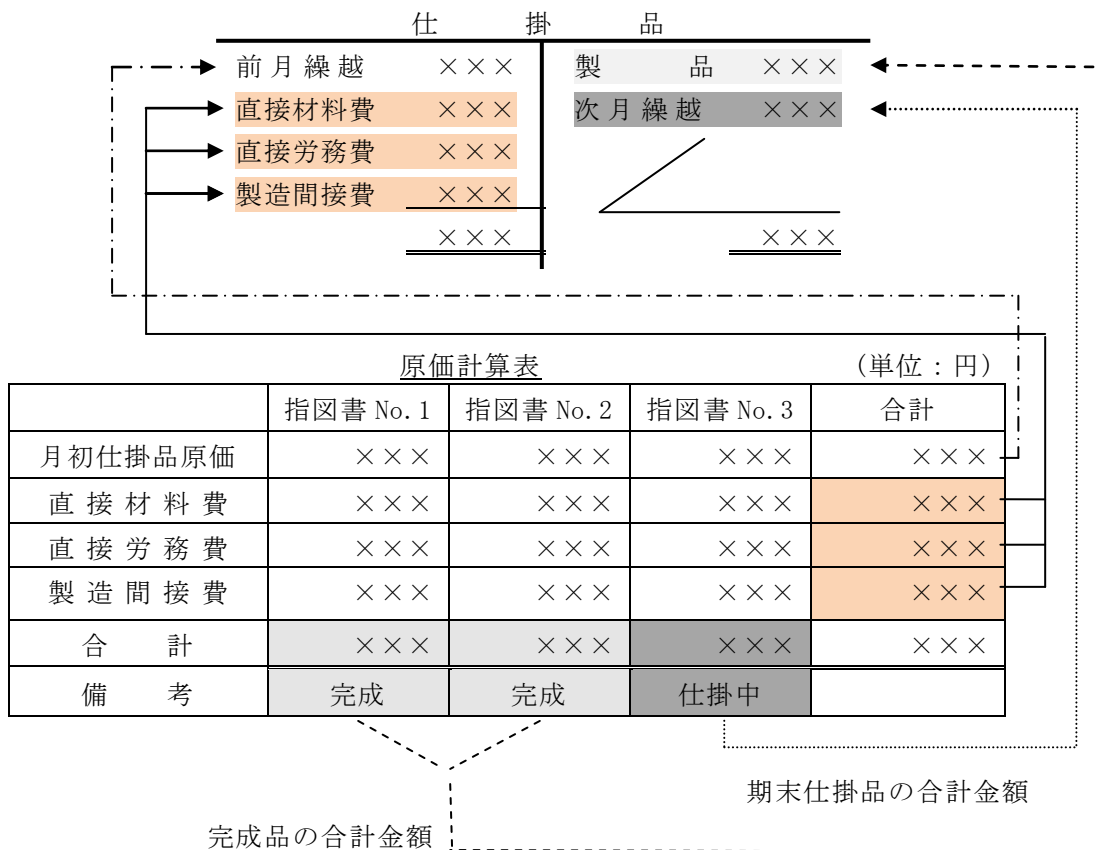
仕 掛 品		(単位：円)	
前月繰越 (1,030,000)	製 品 (4,830,000)
直接材料費 (900,000)	次月繰越 (1,060,000)
直接労務費 (1,800,000)		
製造間接費 (2,160,000)		
	<u>(5,890,000)</u>		<u>(5,890,000)</u>

問 2

売上原価 = 5,439,000 円

【解説】

個別原価計算に関する基本的な問題である。まず原価計算票と仕掛品勘定の次のような関係を正確に理解することが大切である。



問 1

製造指図書単位の 2 月の原価計算表を作成すれば次のとおりである。

	101	102	201	202	203
月初仕掛品原価		1,030,000	—	—	—
直接材料費	450,000	—	200,000	300,000	400,000
直接労務費	700,000	200,000	800,000	500,000	300,000
製造間接費	840,000	240,000	960,000	600,000	360,000
合計	1,990,000	1,470,000	1,960,000	1,400,000	1,060,000
備考	前月着手・ 完成済み	完成	完成	完成	仕掛中

※ 指図書番号 101 は、1 月中にすでに着手・完成しているため、仕掛品勘定の記入には関係しない。
仕掛品勘定の各項目の金額は次のように、上の表を横に見て計算する。

前月繰越：1,030,000 円

直接材料費：200,000 円 + 300,000 円 + 400,000 円 = 900,000 円

直接労務費：200,000 円 + 800,000 円 + 500,000 円 + 300,000 円 = 1,800,000 円

製造間接費：240,000 + 960,000 円 + 600,000 円 + 360,000 円 = 2,160,000 円

製 品：1,470,000 円 + 1,960,000 円 + 1,400,000 円 = 4,830,000 円

次月繰越：1,060,000 円

問 2

売上原価は販売された（引き渡された）製品の製造原価のことであるから、本問では 2 月中に引き渡された指図書番号 101、102 および 201 の製造原価が売上原価となる。

ただし、本問では資料 2 から製造間接費が予定配賦されていることがわかるため（つまり、原価計算票や仕掛品勘定の製造間接費の金額は予定配賦額で記入されているため）製造間接費配賦差異を売上原価に賦課する必要がある。

予定配賦額：240,000 円 + 960,000 円 + 600,000 円 + 360,000 円 = 2,160,000 円

実際発生額：225,000 円 + 600,000 円 + 1,354,000 円 = 2,179,000 円

配賦差異：2,160,000 円 - 2,179,000 円 = -19,000 円（借方差異）

差異が借方差異のため、予定配賦額に加算して売上原価を算定する。

売上原価：1,990,000 円 + 1,470,000 円 + 1,960,000 円 + 19,000 円 = 5,439,000 円

新新版日商簿記 2 級工業簿記 テキスト P.70～90 参照

新版日商簿記 2 級工業簿記 問題集 P.36～50 参照